

県内初の住宅耐震改修助成制度、水道料金統一などで前進

9月議会終わる

6月議会で杉本議員が地域自治のあり方について提案しましたが、13の地域自治区と地域協議会を合併後6年以降も存続させ、旧上越市内にも地域協議会をつくるべきだという提案が続いています。

9月議会の一般質問に立った市民クラブの山岸行則議員

旧上越市内にも地域協議会をの提案続く

議員は、「合併前の上越市内にも地域協議会の設置を」と訴えました。これは6月の杉本質問とほぼ同趣旨ですが、市長の意思を再確認したものとして重要です。

答弁に立った木浦市長は、「都市内分権の推進の立場からいって重要だ。合併前の上越市内での設置は条例による設置を検討している。問題はどのような単位で設置するか」と答えました。今後の動きに注目です。

日本共産党上越市議団ニュース

26	2005年10月9日	
連絡先	杉本敏宏	524-3787 (東本町5)
	樋口良子	544-6802 (中門前3)
	橋爪法一	548-3628 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203 (頸城区中柳町)

日本共産党議員団、198議案のうち3議案に反対

8月31日にはじまった9月定例議会がようやく終わりました。前半は総選挙と重なり、投票日が終わってからは厚生常任委員会、総務常任委員会、一般質問と続き、あわただしい日程でしたが、日本共産党議員団は、「住民こそ主人公」の市政を求めて奮闘しました。

今定例議会には全部で198もの議案が提案されました。日本共産党議員団はこの内、平成16年度一般会計決算認定、平成16年度国保会計認定と平成16年度新幹線新駅周辺整備事業特別会計決算認定の3議案に反対し、残る議案はすべて賛成しました。

日本共産党議員団の3人は、市政の重要問題について分担して質問を展開しました。その中で、県内で初となる木造住宅耐震改修助成制度を来年度から実施することや健康審査事業の充実、地域を重視した災害対策の強化などが約束されました。

巨額の新幹線駅周辺整備事業は見直さず、高齢者の生きがい奪う姿勢は許されない

平成16年度一般会計決算認定などで反対討論に立ったのは樋口議員です。

同議員が反対理由にあげたことの一項目は、巨額の税金を投ずる新幹線駅周辺整備事業を見直さず、お年寄りの趣味講座、春日山荘の入浴料などを有料化した政治姿勢です。

理由の第二は、市民に対する説明と意思確認を十分せずに合併を推進したこと。説明会に参加する市民も少なく、アンケートの回収率も五割を切る、市民が望んだ住民投票を正々堂々とやらなかったのは問題だと批判しました。

理由の第三は、ごみ最終処分をめぐる事務執行問題です。同議員は、事業者が処理する費用の一部を市が負担することにしたこと自体問題だ、会計処理に不適切なことがあったにもかかわらず、議会への報告も遅い、処分は関係職員だけにとどめ、市長自

らの処分の必要性を

(当初から)認めなかった(今議会でも)

と認め、最終日に処分を決めた(この姿勢は認められないとのべました。

理由の第四は、議員の海外視察です。市民から、

「観光的要素が強く、いまだに上越市の議会は税金を使って(海外視察に)行っているのか」という批判があったにもかかわらず、昨年度は実施した。これは認められないとのべました。



写真はシラネセンキュウ。5日、吉川区にて撮影。